

具体的なアイデアが続々！！ 人・農地プラン実質化の 座談会 ～朝日町～



～地域に開かれた農業を目指す～



発行者：(一社)山形県農業会議
やまがた農業ファシリテーター研究会
(愛称:エンジョイ農学部)
発行日：令和 3年 12月 13日

朝日町農業委員会は、令和3年11月2日(火)に第2回目の「人・農地プランの実質化」の座談会を開催しました。第1回は「夢を語る座談会」を開催し、参加者が持つ思いや取り組みたいことを共有しました。

第2回では、いよいよ実質化にむけ、前向きな雰囲気を持続しながら「北部地区における10年後の農地利用」についてアンケート結果や地図を活用しながら具体的な話し合いを行いました。

今回は、新たな試みとして「水田・畑や樹園地・人」と項目を分けてアイデア出しを実施。それにより、参加者からはより具体的なアイデアが出され、また、複数の項目のアイデアを掛け合わせることで、また新しいアイデアの種が生まれていました！

人・農地プランを
みんなの力でステップアップ！UP



《実質化に向け出されたアイデアの種》

- 「大谷米 (OTANI)」のブランド化で北部の米農家を増やし休耕田を減らすプロジェクト!!
 - フルーツグランピングキャンプ場をつくって新規就農者用の圃場整備、アップル商品開発
 - 農閑期の労働力提供 (将来地域づくり事業協同組合) と新規就農者の受入 (増加)
 - 樹園地の基盤整備が必要
- OTANI 米 などなど

これらの話し合いで出されたたくさんのアイデアの種を元に、意見を整理しまとめていきます。



回数を重ねることでチームワークも
話し合いの中身も良くなっていくね！



地域主体で人・農地プランの実質化と実行

農業委員・推進委員がファシリテーターとして活躍

話し合い重ね合意形成へ

第1回は「夢を語る座談会」

朝日町農業委員会（鈴木好一会長）では、人・農地プランに係る座談会で、合意形成型話し合い方式であるファシリテーションの手法を取り入れた。地域の農業委員・農地利用最適化推進委員が農業ファシリテーターの認定を取得し、地域の農業者と一緒に主体性を持った取り組みを進めている。

朝日町の人・農地プランは三つあり、昨年度中の実質化を目指していた。しかし、コロナ禍に加え、その夏に発生した豪雨災害からの復旧が最優先となったことから座談会が開催できず、実質化の工程を延長させるを得ない状況となっ

山形 朝日町農業委員会

た。今年の夏以降、コロナ禍が少しずつ落ち着きを見せられてきたところで、同町農林振興課と農業委員会で「対話のスキル」と「まちづくりのスキル」を学んでおり、同町ではこのスキルを地域の農業者や住民のアイデアに生かすことで、未来につながる充実したプランにすることができると考え実践に移した。実践にあたっては、話し合いと農村づくりの専門家がいる県農業会議と連携した。同町と農業会議は北部地区に「朝日町北部地区農業の夢・未来づくり部隊」を設置。打ち合わせを重ねて9月16日に第1回の「夢を語る座談会」を開催した。25人の参加があり、「住民の笑顔がこぼれる農泊先進地区を楽しく目指そう」など、多くのアイデアが発表された。

県農業会議と連携

農業ファシリテーターは「対話のスキル」と「まちづくりのスキル」を学んでおり、同町ではこのスキルを地域の農業者や住民のアイデアに生かすことで、未来につながる充実したプランにすることができると考え実践に移した。実践にあたっては、話し合いと農村づくりの専門家がいる県農業会議と連携した。同町と農業会議は北部地区に「朝日町北部地区農業の夢・未来づくり部隊」を設置。打ち合わせを重ねて9月16日に第1回の「夢を語る座談会」を開催した。25人の参加があり、「住民の笑顔がこぼれる農泊先進地区を楽しく目指そう」など、多くのアイデアが発表された。

楽しい座談会の雰囲気事前にはどのようにチラシを工夫



第2回は「10年後の農地利用」 参加者から具体的アイデア続々



活発な話し合いの様子

続く第2回の座談会は11月2日に開催。33人の参加があり「同地区における10年後の農地利用」についてアイデアを出し合った。グループで話し合いを円滑に進めるため、それぞれのグループに農業ファシリテーターが加わった。そこでは「フルーツガーデン」を造って、新規就農者用果樹園の圃場整備や「若い人たちが作業しやすい稲作のスマート農業・圃場拡大・法人化」などといったアイデアが出された。今後、同町では同地区のプランの実質化と実行を進める。本年度中に実行のための座談会を農業会議と連携し開催する予定だ。鈴木会長は「プランは農業者が主体となって、地域・関係機関が一体となって取り組むもの。他の地区でも話し合い活動を推進していきたい」と意欲を語る。

今後、同町では同地区のプランの実質化と実行を進める。本年度中に実行のための座談会を農業会議と連携し開催する予定だ。鈴木会長は「プランは農業者が主体となって、地域・関係機関が一体となって取り組むもの。他の地区でも話し合い活動を推進していきたい」と意欲を語る。

全国農業新聞 2021/12/3号 7面掲載

～農業ファシリテーターとは「地域に開かれた農業の推進を担う人」のこと～

農業の課題は農業者だけの解決は難しく、また、地域の課題も地域だけでは解決が難しくなっています。「農業者」と「地域住民」が一緒になって、「課題」について話し合っていくために、ファシリテーターの「対話のスキル」だけでなく、「まちづくりのスキル」も身に付けた人のことを「農業ファシリテーター」といいます。山形県では、現在17名が、農業ファシリテーターの資格を取得しています。

やまがたの人・農地プラン「実質化」そして「実行」へ・・・

山形県農業会議では、「やまがた地域の農地を活かし、担い手を応援する活動～れいわネクストアクション～」で、農業ファシリテーターの養成等、農業委員会の活動を伴走支援しています！

詳しくは山形県農業会議HPをご覧ください <http://www.yca.or.jp/>

